



小池博史ブリッジプロジェクト

9年間の集大成

舞台「完全版マハーバーラタ」公演 報告会

小池博史ブリッジプロジェクト「完全版マハーバーラタ」公演の開催に先駆けて、2021年7月茅野市民館にて、空間演出家・小池博史の初監督作品「壊れた時間のバラタ」の上映会を行いました。

そして、本年8月、コロナ感染が猛威を振るうなか、なかのZERO大ホール（東京）にて「完全版マハーバーラタ」公演を開催。コロナ禍での6時間に渡る公演は歴史的な偉業となりました。

地方からの観劇が困難な時期での開催であったため、多くの茅野の皆さまには公演をご覧いただけず、大変残念でしたが、「完全版マハーバーラタ」の舞台映像のダイジェスト版をいち早くお届けし、9年に及んだ『マハーバーラタ』プロジェクトの道のりを皆さまにもご報告するべく、本イベントの開催に漕ぎつきました。

小池は、この超大作を終えた直後に、休む間もなく新たな映像作品プロジェクトとなる「銀河—2072」も始動させ、コロナ禍においても芸術の可能性をさらに広げていく活動を続けています。この小池博史初長編映画となる「銀河—2072」のプレ映像を茅野市民館にて初公開し、新たな挑戦に向けての意気込みとその創作の原点について語ります。

2021年12月3日(金)18:30開始 (18:00開場)

会場：茅野市民館マルチホール

入場料：無料 事前にお申込みください

小池博史
トークショー
あり



〔お申込み・お問合せ〕茅野市民館
〒391-0002 長野県茅野市塚原一丁目1番1号
Tel：0266-82-8222
Fax：0266-82-8223
受付時間：9:00~20:00
火曜日休館（火曜日が祝日の場合は翌平日）

主催：株式会社サイ
共同主催：茅野市民館指定管理者 株式会社地域文化創造

完全版マハーバーラタ

～愛の章/嵐の章～

2021年8月20日～23日、舞台「完全版マハーバーラタ」をなかのZERO大ホールにて上演した。世界最長の叙事詩「マハーバーラタ」を全編上演する本プロジェクトは2013年から9年間かけてアジア9ヶ国で創作、全40回の公演を行った。その集大成となる6時間の舞台「完全版マハーバーラタ」はコロナ禍の真っ只中での上演となった。「完全版マハーバーラタ」の映像を編集して映像化した「完全版マハーバーラタ」のプレ映像を上映する。

あらすじ

マハー=偉大な、バーラタ=バラタ族、つまり「偉大なバラタ族」の物語。
 バラタ族のクル家とパンドゥ家の兄弟達は共に育てられた。だが妬みから生まれた小さな対立は次第に大きくなり、サイコロ賭博をきっかけにパンドゥ家が13年間、森に追いやられてしまう。13年後、クル家、パンドゥ家の対立はさらに悪化、大戦争が勃発する。泥沼化した戦争だったが、世界を司るビシュヌ神の化身、クリシュナの奸計によりパンドゥ家が勝利するも束の間、クル側のわずかな生き残りが夜襲をかけ、パンドゥ側のほとんどが全滅。
 その後、兄弟達は悲しみから立ち上がり都を統治。しかし五兄弟以外は絶望感に苛まれ、次々と死んでしまう。世を夢んだ五兄弟はヒマラヤを目指す。ところが途中で次々と倒れ、バラタ族は消滅に至る。



完全版マハーバーラタ～愛の章/嵐の章

文化庁委託事業「令和3年度戦略的芸術文化創造推進事業」/東京2020 NIPPONフェスティバル 共催プログラム

演出・脚本・振付・構成：小池博史 出演：Lee Swee Keong、小谷野哲郎、Danang Pamungkas、Moon Moon Singh、川満香多、Ronnarong Khampha、Suryo Purnomo、土屋悠太郎、Waewdao Sirisook、福島祥、Hermawan Sinung Nugroho、今井尋也、川野誠一 演奏：下町兄弟、今井尋也、Taku Hosokawa 美術：栗林隆、Timoteus Anggawan Kusno、Firos Khan、Agung Kurniawan、ARS Management 衣装：浜井弘治、Atinna Rizqiana、Mandakini Goswami 音楽：Yennu Ariendra、Chandran Veyattummal、藤井健介、下町兄弟 映像：飯名尚人 アニメーション：青山健一 小道具：森聖一郎、五十嵐彰乃、ARS Management 照明：上川真由美 音響：深澤秀一

銀河—2072

テクノロジーが発達し、気候変動やAI技術、監視技術がさらに大きな影響をもたらしたとき、人間はどうなっていくのかを描く、小池博史オリジナルの近未来映画作品である。私たち人間が抱える欲望や苦悩、苦渋を表現し、歴史の混濁や未知数の世界を描きながら、人間とはなにか？生きるとはなにか？を問う。

STORY

「意識が残っている死体」と「現在」を繋ぐ研究をしている男がいた。

2072年、近未来。監視社会化が進み、情報が行き渡らなくなっている50年後。隕石が地上に落下したとの噂は流れたが、定かではない。だが気候変動によるのか、それともその他の要因があるのかわからないまま異変が起き続け、人類は生きる手段を考えざるを得ない状況に陥っていた。男は「意識が残っている死体」と「現在」を繋ぐ研究を行っている。その研究を巡り、権力者たちからの追跡や、協力者を名乗り、秘密裏に研究を盗もうとする者が現れる。幻覚を見ているかのような世界の中で、限定的に生きる人間の滑稽さや、生きている人間の役割や、生と死の境界線が何かを追究する。



出演：徳久ウィリアム・松島誠・伊藤健康・櫻井麻樹・瞳・キモトリエ 音楽：太田豊 美術：森聖一郎 監督/脚本：小池博史 企画制作：株式会社サイ 助成：文化芸術振興費補助金(コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業)

小池博史

空間演出家・作家・振付家・映像作家、「舞台芸術の学校」代表 武蔵野美術大学空間演出デザイン学科教授、茨城県日立市生まれ。一橋大学卒業。1982年パフォーミングアーツグループ「ババ・タラマラ」設立。以降、全55作品の作・演出・振付を手掛ける。2012年5月解散。すぐに「小池博史ブリッジプロジェクト（HKBP）」を立ち上げ、空間芸術と名乗りつつ、創造性を核に教育・発信・創作を三本柱とした連携プロジェクトを展開。アジア各地で22作品を創作。現在までに演劇・舞踊・美術・音楽等のジャンルを超えた空間芸術作品を15カ国で創作、40ヶ国で公演。



小池博史ブリッジプロジェクト/株式会社サイ
 公式ウェブサイト <http://kikh.com/>

@kikhproject @kikhbridgeproject

@kikhproject @kikhbridgeproject

茅野市民館指定管理者 株式会社地域文化創造

長野県茅野市塚原一丁目1番1号 (JR茅野駅東口直結)

TEL 0266-82-8222 FAX 0266-82-8223

受付 9:00~20:00、火曜休館

<http://www.chinoshiminkan.jp/>

